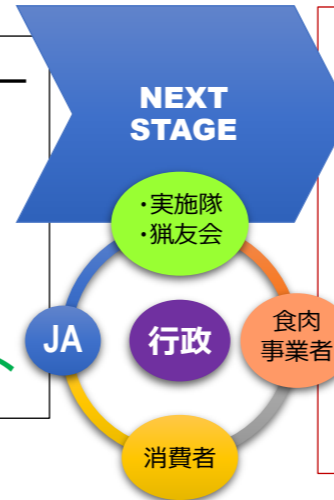




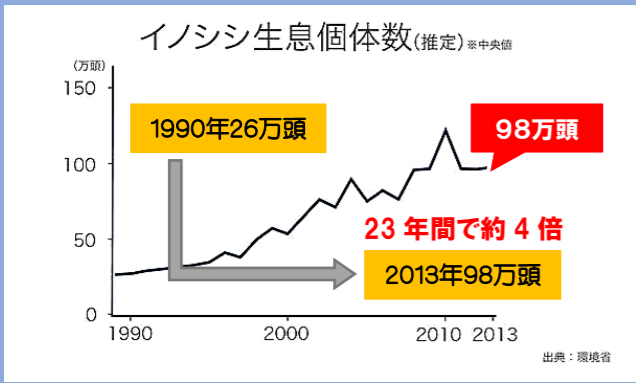
人間 & 野生動物のバランスよい共存と資源の有効利用のために・・・

志太地域における鳥獣被害対策。新たなステージへ好機到来。

- 農業者の減少、耕作放棄地の増加、ハンターの減少により野生動物は増加の一途
 → **イノシシ、シカ、ハクビシン、サルなどの脅威**
 (主原因: オオカミなど天敵絶滅で生態系バランスの崩壊)
- 圃場ばかりでなく民家の庭先まで出没
施策の主眼は「保護」から「適正管理」へシフト



- Point 1** 捕獲数を拡大し農作物被害の減少と鳥獣の個体数適正化を図る (猪は20年余で4倍に激増→1/4に戻す)
- Point 2** 捕獲方法の最適化 (ワナ猟) で食肉利用を推進
 → 捕獲意欲の向上とジビエ産業の発展 **win, win**
- Point 3** ワナ猟者を中心「**鳥獣被害対策実施隊**」の編成
 → 総合対策交付金 **all get** → ビジネスモデル構築
狩猟者、食肉処理業者、行政の連携で獣害のない地域形成



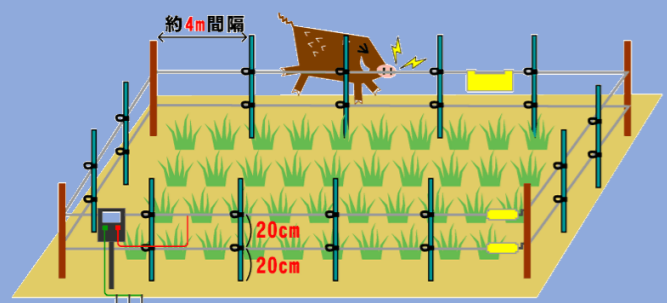
サル対策は、GPS で群れの動きを追跡し農作物被害を予防したい。



■くくりワナは、地権者や住民に適した捕獲方法だ。(※要狩猟免許)
 ICT を利用すれば、すばやく対応でき質の高い食肉が得られる。

Point 4 「食肉解体処理施設」を藤枝市に早期建設

● 搬入された屠体は、ここで内臓摘出・剥皮・枝肉処理・加工・包装がされ冷蔵保管される。廃棄部位、残渣の処理設備も必要。



圃場への電気柵やフェンス対策では動物個体の減少にならない。民家の庭先まで出没している。



箱ワナや囲いワナにセンサー & カメラを設置。スマートフォンで遠隔操作し捕獲するICTを導入したい。



山道もスイスイ！
 機動カバグン！

● 軽トラック型保冷車で捕獲現場から処理施設へいち早く屠体を搬送。

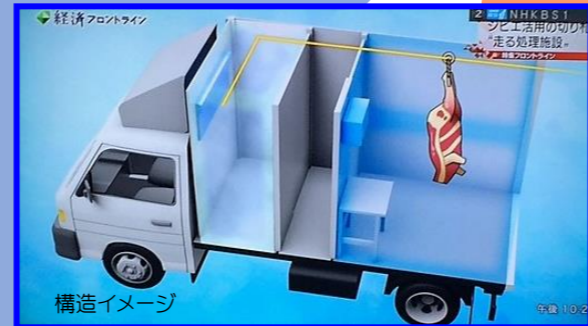
〈解体処理施設の効果〉

1. 農作物被害の減少
2. 新ビジネスの創出
3. 新規雇用の創出
4. 山間地域の活性化
5. 狩猟者の技能向上

HACCP
ジビエ専用の食肉処理施設



■「ワナ猟・銃猟など狩猟免許取得者は、地域の安全・安心確保に無くてはならない大切な存在だが、国の『鳥獣被害防止総合対策交付金』をフル利用できるよう、新たに「鳥獣被害対策実施隊」の編成が望まれる。全国では、1,073(H28.4月現在)もの自治体で既に設置されていて義務化も近いようだ。



■「JA おおいがわ」で導入が検討されている「移動式解体処理車」(2トン車)。捕殺現場近くで内臓摘出、剥皮等の一次処理ができる。密閉冷蔵搬送により食肉の品質保持に役立つが何しろ高価格。導入時期も未定だ。



● 本市で意欲的にジビエを展開する食肉事業者は本構想に賛同！市内への解体処理施設実現を熱望している。

● びく石牧場跡地など適地は多い。



● 大手スーパーも動き出したジビエ。本市のインフラと地の利を活かそう！